

日	々	の	
暮	ら	し	に

香川芳子

女子栄養大学学長

私とラジオのつき合いは長く、生活の一部ともいえます。台所、書斎、寝室など、要所に1台ずつ計4台あり、どこでも聞くことができます。朝まずスイッチを入れて身支度や食事の支度、書類の整理をしているとラジオ体操が始まります。人間も動物ですから使わなくなった筋肉はどんどん衰えていきます。第一と第二を合わせて10分、体じゅうの筋肉を動かします。何十年も続けている習慣です。ラジオ放送では内外のさまざまな情報のほか、畑違いのかたの専門のお話にも興味をひかれます。

夜は「ラジオ深夜便」です。さまざまなかたの生き方に感心しながら眠りにつくのですが、一定時間で電源が切れるようにセットしてあります。ですから眠れない夜でも寂しく思うことはありません。また、かつて、ともに学んだ友人の声が聞こえ、その話の内容からヒントを得て体組成の測定方法を開発したこともあります。先日はシュトラウスのウインナワルツが流れてきてうっとりしました。戦後、娘時代に社交ダンスを習ったことがあるのですが、その記憶をよみがえらせてくれました。

ラジオは生活の一部  
その情報から  
ひらめくことがあります

